

---

# 変色日和

凜花

---

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

変色日和

### 【Nコード】

N0620F

### 【作者名】

凜花

### 【あらすじ】

女が変わるとタバコの銘柄が変わる男。このなんともわかりやすい男を略奪した女の心が変色していく様。

（前書き）

二年ほど前に、創英社主宰の超短編コンテストに入選した作品の改良品です。原稿用紙四枚程度の超短編。どちらかと言うとは文学寄りな作品です。のつもり

いつものようにこちらへ背を向けてタバコをくわえ、いつものように少し体を丸めて、いつものジッポで火をつける。そんないつもと変わらない風景に、異質な匂いが漂ってきた瞬間、私はあの女の言葉を思い出していた。

『タバコの銘柄が変わったら、女が出来た証拠よ。気をつけなさい』  
一ヶ月前、義之は私の目の前で当時付き合っていた女に別れを告げた。その時、女は目を据えて私にそう言った。

彼の部屋でもう何回目かわからなくなったセックスをしている最中に、たまたま遊びに来た彼女と鉢合わせになってしまい血の気が引いたのを思い出す。女は私の予想に反して始終冷静なままだった。普通の女なら嫉妬心の塊でできた牙を剥きだしにして喚いただろうに。

その時、彼女はふつくとした唇に真つ赤なルーージュをひいていた。その真つ赤な唇には笑みさえ浮かんでいたような気がする。まるでそれ自体が一つの生き物であるかのような存在感を放っていた唇がリアルに思い出される。

新しいタバコの匂いが鼻をつく。何故か懐かしくも感じられた。  
「ねえ、タバコ、替えたんだ？」

出来る限り平生を装って、やつとのことですの言葉を搾り出した。血が滲み出しそうなくらいカラカラに乾いた喉が痛む。

ああ、と気だるそうに生返事をする義之の態度で私は確信した。女が出来たのだ。認めた途端に激しい怒りがこみ上げてきた。

それでも、何でもないという風に軽く流して見せたのは、あの女に対するちよつとした憧れからだつたのかもしれない。

けれど、間違いなく私の心は醜い嫉妬心で毒々しく変色し始めている。義之に出会った頃の弾むように鮮やかだったピンク色は、あと数分で完全にどす黒い腐敗色に染まってしまうだろう。

ふと、ある予感が頭を過ぎり、私はそれを確かめるために彼の持つタバコの箱を覗き込んだ。

私の目がその銘柄を捉えた瞬間、全身が粟立った。

それは、義之が私の好きなものに替える前に吸っていた銘柄だった。

脳裏にあの女の唇が浮かぶ。うつすらと笑いを含んだ、鮮血のよう

に赤い唇が。  
『タバコの銘柄が変わったら、女が出来た証拠よ。気をつけなさい』  
無理に想像せずとも自然に浮かんでくる　あの女が、あの時よりも一層冷静な目で彼を見つめ、その目とは対称的な妖艶な赤い唇で誘う姿が。

止めたくても止まらない映像。私の頭の中は、もう既にあの女に支配されてしまっていた。

## （後書き）

最後まで読んでくれてありがとうございます。もしよければ、下のアンケートにもご参加ください。遠慮せずに悪いところもどんどん指摘してもらえると助かります。もちろん、コメントなしで評価だけでもらってもOKです。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0620f/>

---

変色日和

2010年12月13日18時02分発行